

【Accopsニュースレター】 2026.5.22 製品リリースについて

2026/09/17 20:28:50

記事印刷

区分:	ACCOPS FAQ::01. お知らせ	投票:	0
ステータス:	公開 (全員)	結果:	0.00 %
言語:	ja	Last update:	2026/06/04 - 16:57:18

キーワード

HyWorks 4.1

症状 (公開)

問題 (公開)

解決 (公開)

本日はAccops製品のニュースレターとして、新しくリリースする製品の情報を提供させていただきます。

【HyWorks】

HyWorksの新しいバージョンがリリースされました。

リリース名: HyWorks リリース v4.1

日本では2026年5月22日よりサポートされます。

また、十分な検証を実施の上、適用されることをお勧めいたします。

◆適用対象

このリリースは、HyWorksの以下のリリースに適用可能です。

v3.6以降

◆モジュールの互換性：

HyWorks v4.1コントローラーは以下と互換性があります。

v4.0 Windows仮想デスクトップモジュール（HyWorks DVMツール、セッションホスト、Linux DVMツール） v4.0 SRMS、v4.0

VM Scale Booster、v4.0 Action Processor and Scheduler、v4.0 Policy Engine

◆今回のリリースのハイライト

インストール

Accops Hypervisor ManagerおよびAccops HyWorks APIサービスを

インストールするための新しいオプションが追加されました。

Accops Hypervisor Manager Service：

ハイパーバイザーを独立して管理する新しいサービスで、管理サーバーの負荷とコストの削減に役立ちます。現状では、Hyper-Vサーバーとクラスターをサポートしています。

Accops HyWorks APIサービス：

HyWorksとサードパーティ製アプリケーションとの統合を可能にし、HyWorksの機能を外部アプリケーション内で拡張および利用が可能です。

新しいコネクタ統合

RedHat OpenShift/HPE VM Essentials/Accops Hypervisor Manager（AHM）

HyWorks v4.1では、主要なコネクタ統合が多数追加され、

プラットフォームのコネクタ非依存型アーキテクチャがさらに強化されました。

この機能強化により、オンプレミスおよびクラウドの仮想化プラットフォームを問わず、

より幅広い環境でHyWorksを展開することが可能になります。

RedHat OpenShift：

HyWorks v4.1では、OpenShiftコネクタの統合が導入され、

管理者はOpenShiftの仮想化機能を最大限に活用できるようになりました。

今回のリリースでは、プロビジョニング、容量計画、自動電源管理、スケジュールされたアクションなど、

HyWorksのほとんどの機能がサポートされています。

HyLabsのサポートについては、今後のリリースで検討される予定です。

HPE VM Essentials：

HyWorks v4.1では、HPE VM Essentialsコネクタが導入され、

管理者はHPE VM Essentialsの仮想化機能を最大限に活用できるようになります。

今回のリリースでは、プロビジョニング、容量計画、自動電源管理、スケジュールされたアクションなど、

HyWorksのほとんどの機能がサポートされています。

HyLabsのサポートについては、今後のリリースで検討される予定です。

Accopsハイパーバイザーマネージャー（AHM）：

Accops Hypervisor Manager（AHM）は、従来のハイパーバイザーやクラスタ管理サーバーに代わる、

軽量かつコスト効率の高いソリューションです。

HyWorks との統合を前提に設計された、集中管理レイヤーを提供します。

対象となる仮想化環境としては、Microsoft Hyper-V（デスクトップエクスペリエンスを備えた

Windows Server 2019、2022、および2025）およびMicrosoft Hyper-Vクラスターとなります。

デスクトップページでのVM可用性ステータスの表示機能強化

HyWorks v4.1では、デスクトップページに大幅な改善が加えられ、

仮想マシンの可用性が正確に表示されるようになりました。

以前は、割り当ては複数の要因（VMの電源状態、エージェントの状態、カスタマイズなど）に

依存していましたが、それらの要因は管理コンソールに完全に反映されていませんでした。

「接続」列の名称が「ユーザビリティと接続ステータス」に変更されました。

これにより、仮想マシンが正常かどうか、また、空き状態、割り当て済み、

または現在接続されている状態が明確に表示されるようになりました。

ステータスは色とアイコンで表示されます。

・緑：正常

・赤：エラー状態

・オレンジ：作業中

管理者は、デスクトップの現在の状態に基づいてデスクトップをフィルタリングできるようになりました。

HyWorks APIサービス統合

インストーラーの変更点に記載されているように、HyWorks v4.1ではサードパーティ製

アプリケーション向けのAPI統合サポートが強化され、
HyWorksおよびHyLabsの機能を直接使用できるようになりました。

認証と認可：
HyWorksとHyLabsのAPIはどちらも、自己発行型のJWTベースの認証モデルを使用しています。
サービス登録：
APIにアクセスする前に、すべての利用サービスはHyWorks管理コンソールに登録する必要があります。
Hyper-Vコネクタを使用した非永続的かつスナップショットベースのプロビジョニング
HyWorks v4.1では、以下の機能によりHyper-Vのプロビジョニング機能が強化されています。

スナップショットからのクローン：
管理者は、ソースVMの特定のスナップショットから新しいVMをデプロイできます。
これにより、既知のVM状態からのクローン作成が可能になり、
必要なゴールドマスターVMの数を削減できます。
非永続デスクトッププール：
これまでSCVMMでのみサポートされていたこの機能が、Hyper-Vにも拡張されました。
コネクタの種類
コネクタの種類が増えたため、設定を容易にするために
コネクタは2つのカテゴリに分類されるようになりました。

- ・クラウドサービス
- ・オンプレミス仮想化

HyLabsダッシュボードのデプロイメントに関する詳細情報
HyLabsダッシュボードでは、以下の導入指標が提供されるようになりました。

仮想マシン：
・総VM数
・アクティブなVM数
・アクティブなVM数（科目）
・アクティブなVM数（科目自習）
・アクティブなVM数（自習）
ゴールドマスター：
・ゴールドマスターの合計
・ゴールドマスター（科目）
・ゴールドマスター（自習）
・ゴールドマスター（担当者）
予約状況：
・総予約数
・科目予約数
・科目自習予約数
・自習予約数
その他のバグ修正

Related Product, Service (公開)